

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|------|
| ① 国語 | 50 人 |
| ② 算数 | 50 人 |

5 留意事項

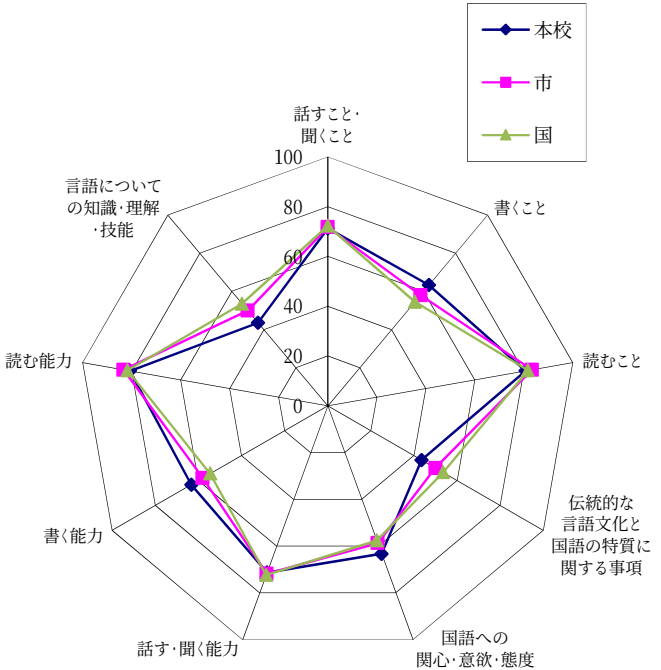
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.3	71.8	72.3
	書くこと	63.3	58.0	54.5
	読むこと	80.7	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	43.6	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	63.3	58.7	57.6
	話す・聞く能力	71.3	71.8	72.3
	書く能力	63.3	58.0	54.5
	読む能力	80.7	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	43.6	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

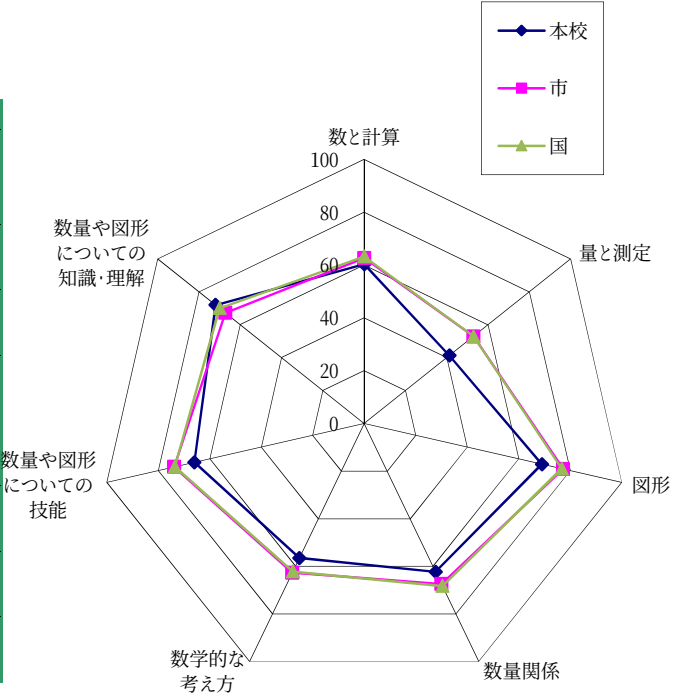
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を下回った。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、県平均を2.9ポイント上回った。 ●目的に応じて、質問を工夫する問題では、県平均を5.4ポイント下回った。	・話の要点や話し手の意図に気を付けながら聞き取るよう、今後も、国語やそれ以外の教科の授業の中でも指導していく。 ・グループや学級全体の話し合いの中で、問題解決に向けて、司会者や提案者、参加者などの役割を決め、より一層豊かな相互交流を図ることができるようにする。質問をする場面では、話し合いの目的や流れに応じているかどうか考えるよう助言する。
書くこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題では、県平均を5.5ポイント上回った。 ○図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題では、県平均を11.6ポイント上回った。	・図表やグラフなどの資料を用いた目的を捉える力が育っているため、今後も、資料を読み取り、まとめて書く活動を取り入れていく。 ・報告する文章などを書くときに、読み手や目的を明確にしながら、書く必要のある事柄を選んだり、書く内容を工夫したりすることができるように指導する。
読むこと	平均正答率は、市平均を下回った。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む設問の、「疑問に思ったこと」の問いの答えになるものを選ぶ問題では、県平均を4.3ポイント上回った。 ●目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題では、県平均を6.5ポイント下回った。	・物語だけではなく、説明文やその他のさまざまな読み物にも興味・関心をもつよう、読書を奨励したり、本の紹介をしたりして、読む機会を設けるようにする。 ・本や新聞、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際は、目的に応じて、重要な語や中心となる文を捉え、必要な情報を見つけながら読むことができる能力を育てるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市平均を下回った。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題では、県平均を3.8ポイント上回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、3問全てで県平均を下回った。特に「かんしん」を「関心」と書く問題では、正答率が8.0%だった。「かぎらず」を漢字で書く問題では、無解答率が18.0%だった。5学年までに習った漢字や同音異義語の使い方、語句の意味の理解等に課題がある。	・漢字を習得させるために、学習した漢字を繰り返し書いて練習するとともに、さまざまな場面で、実際に文章の中で正しく使う活動を行う。また、漢字のもつ意味を考えたり、同音異義語に注意しながら漢字や語句を使ったりするよう指導する。 ・語彙を拡充するために、国語科の学習だけでなく、他教科の学習においても、国語辞典や漢字辞典を積極的に利用して調べる習慣を付けるようにさせる。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.3	62.7	63.2
	量と測定	41.3	52.9	52.9
	図形	69.0	77.3	76.7
	数量関係	62.3	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	56.5	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	66.0	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	72.0	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を下回った。 ○示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題では、県平均を3.9ポイント上回った。 ●示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用する問題では、県平均を8.8ポイント下回った。	・整数や小数のみの基本的な四則計算はできるが、示された計算の仕方を解釈して、さらに計算したり計算の仕方を記述したりする問題に対しては課題がある。文章題などを活用し、立式や数字の表す意味を考える学習を取り入れ、課題解決の力の定着を図る。 ・整数と小数、分数の混ざった計算や小数同士の計算などが正確にできるよう、ドリルなどで反復練習を進めていく。
量と測定	平均正答率は、市平均を下回った。 ●示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題では、県平均を4.9ポイント下回った。無解答率が10.0%だった。 ●場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題では、県平均を11.7ポイント下回った。	・教科書の文章題を解いた後、文章題をアレンジしたものをを用いて指導し、立式や数字の表す意味について考えるようにさせる。 ・自分で考えたことを、主語を明確にして式や言葉で表す活動を増やし、友達との情報交換などで多くの表現を学び合うようにする。 ・単位量当たりの大きさについて復習し、その意味や求め方への理解が深まるようにする。
図形	平均正答率は、市平均を下回った。 ○台形について理解しているかの問題では、県平均を2.1ポイント上回った。 ●図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題では、県平均を15.9ポイント下回った。	・さまざまな正多角形や円についての復習を行い、応用問題への定着を図る。 ・新たな学習内容では、過去に学習してきた内容を具体物等を用いて振り返り、素地的体験と知識を結び付けながら指導に当たる。
数量関係	平均正答率は、市平均を下回った。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題では、県平均を0.5ポイント上回った。 ●資料の特徴や場面を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題では、県平均を12.8ポイント下回った。	・算数の課題だけではなく、日常生活の様々な場面で、割合は用いられている。その意味を理解させるために、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるように指導する。特に、基準量は何かをはっきり意識させるようにし、図や式と関連付けて理解を深めることができるようにしたい。 ・問題場面を的確に捉え、式に表すことができるようにさせたい。そのために、簡単な場合で考えたり、自分なりの図をかいたりすることによって、問題の意味を読み取る力を身に付けさせたい。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対して肯定的回答した児童の割合が、どちらも9割を超えている。児童が学習の大切さを理解しながら学習に取り組んでいることが分かった。今後も、児童が学んでよかったと実感できる授業を行っていききたい。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」に対して肯定的回答した児童の割合が92.0%と、県平均を3.2ポイント上回った。授業では、ノートに「めあて」「まとめ」「ふり返し」を書いたり、自分なりに工夫して書いたりするよう指導しているため、その成果が表れていると考えられる。今後もそのような指導を継続していききたい。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して肯定的回答した児童の割合が県平均を0.5ポイント上回った。その背景には、総合的な学習の時間の中の本校独自の「くすのきプラン」の授業により、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が多くあったことが関係していると考えられる。今後も地域との連携を図りながら、地域の良さをさらに知る機会を授業の中に取り入れていきたい。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけない」に対して肯定的回答した児童の割合が96%だった。道徳や特別活動、校内でのいじめゼロ運動や「ありがたのふわふわ雲」などの啓発活動を通して、相手の気持ちを考える態度が身に付いていると考えられる。今後もこのような指導や活動を継続していききたい。
- 「新聞を読んでいますか」に対して肯定的回答した児童の割合が2%だった。新聞を購入していない家庭もあると考えられるが、教科書にも新聞記事が教材として取り上げられているので、読むことの良さを呼びかけていきたい。
- 「読書は好きですか」に対して肯定的回答した児童の割合が60.0%で、県平均を16ポイント下回った。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」に対して、「全くしない」と回答した児童の割合が40.0%、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」に対して「ほとんど、または、全く行かない」と回答した児童の割合が46.0%だった。今後も読書の魅力を児童に伝えるために、図書委員会による読み聞かせや学校図書館司書による情報提供などを積極的に行い、読書習慣の定着、興味・関心の向上につなげたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学び合う活動の実践 ・「めあて」「まとめ」「ふり返し」の確認・徹底 ・家庭学習の習慣化・充実に向けた指導の工夫と奨励	・自分の考えを言葉や文章、式、図等で表現したり、いろいろな形態(ペア・グループ・全体)で学び合ったりする場を設定している。 ・全教職員が共通理解のもとに、授業において「めあて」「まとめ」「ふり返し」を板書し、児童と共に確認し、ノートにまとめる指導を行っている。 ・「家庭学習のすすめ」や「家庭学習の手引き」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするように指導している。また、学習の仕方について例を示したり、友達のやり方を紹介したりしている。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は68%だった。 ・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています」と回答した児童の割合は92%だった。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は66%だった。「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか」の回答で、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が1番高く、52%で、次が「30分以上、1時間より少ない」の30%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書くこと」において、正答率が低い。 ・本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ていると回答した児童の割合が低い。	・文章を書く場を多く設定をする。 ・国語辞典、その他の本や、インターネットを活用する。	・国語やそれ以外の教科においても、文章を書く場を多く設ける。よい文章の例を示す。 ・国語辞典やその他の本、新聞、インターネット等を活用した学習を行う。読書を奨励する。 ・視聴覚教材を生かして、指導を行う。